

# コミュニティラジオを再考する

## —FM クマガヤを事例として—

堂園真希

近年、コミュニティ FM と呼ばれる、地域に密着したラジオ局が多く開局され注目が高まっている。本論文では、FM.クマガヤ株式会社の代表取締役である人物にインタビューを行い、その設立者としての思いや行動を基に、コミュニティ FM の在り方や魅力について再考していくものである。FM クマガヤは、埼玉県熊谷市の駅ビルアズ熊谷 6 階のスタジオを拠点とし、朝 7 時から夜 10 時まで、毎日 15 時間生放送を行っており、対象地域は、熊谷市、行田市の一部となっている。

インタビューを通して明らかになったのは、FM クマガヤの設立には、この設立者（A さん）人生が大きく関わっていたことである。A さんは、メディアに救われた経験や 2011 年の東日本大震災でコミュニティ FM が活躍したことを聞き、コミュニティ FM を作ろうと考えるようになったという。そして、2018 年 4 月 5 日に FM.クマガヤ株式会社を設立し、2019 年の 4 月 3 日に開局し、87.6MHz で放送を開始した。

そして、コミュニティ FM という地域密着型ラジオだからこそできるコラボレーションがある。FM クマガヤが起点やサポートという形で携わり、人と人を繋ぎ、まち全体で盛り上げていくことができる。これが、FM クマガヤの魅力である。また、災害時の対応、新型コロナウイルスの状況下でのさまざまなコラボレーションなど、臨機応変に対応できる強みがある。さらに、FM クマガヤでは、出会うことのなかった人たちが、繋がるような出会いの場所にもなっている。

このように、A さんの思いや行動が、FM クマガヤの誕生に結びついた。発信する場所としての役割を FM クマガヤが担っていることで、1 つのきっかけを生み出すことができる考えた。SNS などでも発信することはできるが、自分がフォローしている人で、世代や年齢、興味がある分野など、ある程度の発信範囲が決められてしまう。ラジオを活用することで、幅広く発信でき、繋がりを生み出す起点という役割を果たしていくことができる。

また、このようなコラボレーションができるのは、パーソナリティー、声、機械があれば発信できるラジオの特性があると考え。時代に合わせて進化し続け、地域に関わる人々に寄り添い、その地域に特化した情報をもたらすことで存在を確立しているのである。FM クマガヤは、今後も柔軟な取り組みによって、様々な役割を果たしていくだろう。